問題11 次の文章を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。

日本語学習者にとって、来日し、日本語を学ぶことは、自分が生まれ育った文化とは異なる新たな文化の中に身を置き、直接的に日本語や日本文化と関わることを意味する。そこでは新たな文化に対してしばしば不自然さや戸惑いを感じたり、いらだち等の心理的な反応が生じたりするだけでなく、時には心身の何らかの症状を伴うことがある。このような現象をカルチャーショックと呼ぶ。カルチャーショックには、文化的・社会的要因や個人的要因などの様々な要因が関わると考えられる。また、カルチャーショックの程度や様相には個人差があると言われるため、カルチャーショックを体験しても、それを克服し海外生活に適応しやすい人と、そうでない人がいると考えられる。

異文化への適応・不適応の過程を示すモデルの一つとして、リスガード(S. Lysgaard)のUカーブ曲線(U-curve)がある。これは、異文化環境に入った後の時間の経過に伴う適応プロセスを表したもので、おおむね(ア)の過程をたどるとされる。このような異文化適応モデルは単純化されたものであるが、適応のための予備知識として有益であると考えられる。

問1 文章中の下線部A「カルチャーショック」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 同じ言語を使用する国に行った場合には生じることはない。
- 2 その人の海外渡航経験や滞在経験とは関わるが、年齢や性別とは関わらない。
- 3 外国で異文化に触れたとき以外でも体験することがある。
- 4 社会環境によって生じるが、気候や風土など自然環境によって生じることはない。

問2 文章中の下線部Bに関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 カルチャーショックは異文化環境の中の個人の反応であり、文化的・社会的要因と個人的要因の相互作用を受ける。
- 2 カルチャーショックは異文化適応のプロセスを静的にとらえたものであり、文化的・社会的要因、個人的要因から同程度の影響を受ける。
- 3 外国で病的な反応を示した個人が帰国後正常に戻ることもあるため、個人的要因より文化的・社会的要因の影響のほうが大きい。
- 4 外国に移住するすべての人が同程度、同様に経験するものではないため、文化的・社会的要因より個人的要因の影響のほうが大きい。

問3 文章中の下線部Cに関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 新しい試みをためらわない人は、不適応になりやすい。
- 2 一定の生活習慣パターンを維持しようとする人は、不適応になりやすい。
- 3 物事に対して即座に反応する人は、不適応になりやすい。
- 4 他人の評価を恐れず自分の考えや気持ちを表現する人は、不適応になりやすい。

問4 文章中の(ア)に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 適応 → 期待 → 焦燥・孤立感
- 2 適応 → 焦燥・孤立感 → 期待
- 3 期待 → 適応 → 焦燥・孤立感
- 4 期待 → 焦燥・孤立感 → 適応

問5 文章中の下線部Dに関して、異文化適応モデルを知っていると、どのような効果があるか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 カルチャーショックは誰もが経験する一時的なものと認識できるようになる。
- 2 カルチャーショックは孤独に起因する個人的問題だと認識できるようになる。
- 3 異文化の中での新しい経験とそれまでの知識との間のギャップを感じなくなる。
- 4 異文化の中でのストレスやプレッシャーを感じなくなる。

問題13 次の文章を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。

阪神淡路大震災の教訓から、外国人に対する災害発生時の情報伝達を「やさしい日本語」で行う必要性が認識されるようになった。その取り組みの一つとして、弘前大学人文学部社会言語学研究室の「やさしい日本語」がある。同研究室の「増補版『やさしい日本語』を作るためのガイドライン」(2013)では、旧日本語能力試験3級程度の外国人を対象とし、災害時や緊急時に必要となる情報を「やさしい日本語」に言い換えるルールを示している。例えば、「警戒する」を「気をつける」に言い換えるなどである。

ただし、災害時によく使われる語は、言い換えずに、やさしい日本語を添えるとしている。また、言い換えだけでは問題解決には不十分なため、言い換えとともに付随情報も提供することが必要な語も紹介している。

一方で、緊急時支援における言語的問題は日本語母語話者間でも起こりうる。東日本大震災の際には、支援者が現地の方言が分からず医療活動に支障を来すという問題が生じた。この教訓を受け、(ア)の方言用例集が作成され、国立国語研究所のホームページで公開されている。

問1 文章中の下線部A「旧日本語能力試験3級」の出題基準で採用されていた語彙と漢字の数として最も適当な組み合わせを、次の1～4の中から一つ選べ。

	語彙	漢字
1	500語	100字
2	1,500語	300字
3	3,000語	600字
4	6,000語	1,000字

問2 文章中の下線部B「『やさしい日本語』に言い換えるルール」の例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 「揺れる」ではなく、「揺れがある」を使う。
- 「使える」ではなく、「使うことができる」を使う。
- 「できる」ではなく、「できないことはない」を使う。
- 「注意してください」ではなく、「注意しましょう」を使う。

問3 次の<例>を書き換える場合、文章中の下線部Cに当てはまるものはどれか。最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

<例>

今朝、A県B市付近を中心に広い範囲で強い地震がありました。今後、大規模な余震が起きるおそれがありますので、警戒してください。

- 県/市
- 大規模な
- 余震
- おそれ

問4 文章中の下線部Dの例として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 校庭
- 地割れ
- 消火器
- 給水

問5 文章中の(ア)に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 医者がよく使う学術用語
- 患者がよく使うオノマトペ
- 医者がよく使う禁止表現
- 患者がよく使う依頼表現

授業で扱った「やさしい日本語」に関する問題

問題 8 次の文章を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。

文化の異なる人々がともに学ぶうえで、相互の偏見を自覚することは重要な課題である。偏見や差別には、人を何らかの属性や特徴に基づいてまとめて捉える「カテゴリー化」の働きが関連している。特定の社会集団やカテゴリーに対する知識や信念をステレオタイプと呼び、ここに否定的な評価や感情が加わると、「○○人は時間にルーズだ」というような偏見が形成される。その結果として差別意識が生じ、差別行動に至る。

集団間のカテゴリー化により、自分が所属する集団である「内集団」と、それ以外の集団である「外集団」の境界が認知される。外集団に対する偏見や差別が生じやすい一方で、内集団には「我々のほうが優れている」という知覚が生まれ、これを「内集団バイアス」という。このような偏見や差別の自覚には、異文化トレーニングも有効である。異文化トレーニングの一つに、異文化摩擦のエピソードに対する複数の解釈を通じて、多様なものの見方への気づきを促す活動がある。

問 1 文章中の下線部 A「カテゴリー化」に関する記述として最も適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 外見に共通点がなければ、カテゴリー化は起こらない。
- 2 文化が異なっても、カテゴリー化の仕方は変わらない。
- 3 対象に関する情報処理を複雑化するための作用である。
- 4 情報処理における一般的な傾向である。

問 2 文章中の下線部 B「ステレオタイプ」に基づいて判断している例として不適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 Xさんはいつも 1 限の授業に遅刻するので、今日も遅刻してくるだろう。
- 2 中国人学習者は漢字が得意だから、漢字指導は必要ないだろう。
- 3 女性は男性より運転が苦手なので、プロのドライバーには向かないだろう。
- 4 ドイツ人はビール好きだから、パーティーでは日本酒は飲まないだろう。

問 3 文章中の下線部 C に関する記述として不適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 内集団への所属意識が高まると、集団への愛着や忠誠心も高くなる。
- 2 内集団が高く評価されると、自分自身の評価も高まったように感じる。
- 3 外集団に対してよりも内集団へのほうが、成員同士を均質的に捉えやすい。
- 4 外集団の成員は、実際以上に内集団の成員と異なって認識される。

問 4 文章中の下線部 D「外集団に対する偏見や差別」に関する記述として最も適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 肯定的な自己評価を確立したいという動機によって生じる。
- 2 無意識のうちに自然に生じることはなく、意識的に生じる。
- 3 直接会ったことのない外集団に対しては生じない。
- 4 内集団と利害関係や争いのない外集団に対しては生じない。

問 5 文章中の下線部 E の活動を何と言うか。最も適切なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 コンフリクト・マネジメント
- 2 オピニオン・ギャップ
- 3 クリティカル・シンキング
- 4 カルチャー・アシミレーター

問題 9 次の文章を読み、下の問い(問 1～5)に答えよ。

異文化に接触した際のスムーズな適応のための異文化トレーニングは、1960年代のアメリカにその起源を發し、目的や内容に応じて、様々な方法が用いられてきた。

「認知レベル」のトレーニングは、特定の文化に関するものと文化一般に関するものとの2種類に大別される。前者では、特定の文化における適切な対人関係のルールや、社会規範、人種や宗教等についての知識や情報を得る。後者では、偏見や自文化中心主義など、異文化コミュニケーションにおいて生じやすい問題について学ぶ。

「情動レベル」のトレーニングでは、異文化に直面したときの自らの感情を理解し、それを制御するために、心理テスト、ロールプレイ、異文化シミュレーションゲーム等の活動が用いられる。こうした活動においては、参加者の気づきを促すために、訓練されたファシリテーターの存在が欠かせない。

「認知レベル」「情動レベル」のトレーニングを通して異文化接触の不安が軽減されると、積極的に異文化を理解し、コミュニケーション活動に参加する「行動レベル」での変化が期待される。自分とは異なる価値観に遭遇した際に、(ア)という措置を取れるのも、こうした変化の一例である。

問 1 文章中の下線部A「異文化トレーニング」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 参加者それぞれの文化的背景を考慮して、プログラム内容を構築する。
- 2 体験型のトレーニングが中心で、講義形式の学習は行わない。
- 3 渡航前の準備として行うもので、滞在中や帰国後に行うことはない。
- 4 過去に異文化体験をしたことのある者は、トレーニングの対象外とする。

問 2 文章中の下線部B「自文化中心主義」の説明として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 自文化の価値基準を、他の文化にも当てはめようとする
- 2 自文化を特別と考え、他の文化と比較して優劣をつけない
- 3 自文化を客観的に見て、その価値を中立の立場で捉える
- 4 自文化の思考過程は、母語に影響されていると考える

問 3 文章中の下線部C「異文化シミュレーションゲーム」の名称と内容の組み合わせとして不適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

	名称	内容
1	エコトノス	異なる三つの文化グループを設定して「国際会議」を開き、異文化間における意思決定の疑似体験を行う。
2	アルバトロス	前半は種族を代表する男女2名によるロールプレイを見て、後半はその文化について気づいたことをディスカッションする。
3	バーンガ	グループごとに異なるトランプゲームを行い、他のグループに入って言葉を使わずにルールを学ぶ。
4	バファバファ	架空の文化から来たバファバファ人に対して、参加者が専門家に扮して質問することで、その文化を探る。

問 4 文章中の下線部D「ファシリテーター」に関する記述として最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 結論を導くのは参加者に任せ、意見の対立解消には関わらない。
- 2 参加者の考え方や論理の筋道などの思考的なプロセスに関与して、議論を促す。
- 3 感情の動きや参加者相互の関係性などの心理的なプロセスには立ち入らない。
- 4 参加者の発言に対して質問や復唱を行わず、参加者の話を聴くことを優先する。

問 5 文章中の(ア)に入れるのに最も適当なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

- 1 エンバシー
- 2 ラポール
- 3 エポケー
- 4 エンブレム

問題 8 留学生を対象としたカウンセリングや異文化受容等に関する次の問い(問 1～5)に答えよ。

問 1 カウンセリングにおける「ラポール」の説明として最も適当なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 相談者との間の信頼関係
- 2 アドバイザーによる調停
- 3 相談者との物理的な距離
- 4 非言語による意思伝達

問 2 カウンセリングにおいてカウンセラーが行う「傾聴」に関する記述として**不適当な**ものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 相談者に聴きたい内容を引き出せるように話を進める。
- 2 相談者の話をただ聞くのではなく、注意を払って丁寧に聴く。
- 3 相談者が相談者自身に対する理解を深められるように関わる。
- 4 相談者の納得のいく判断に到達するようサポートする。

問 3 留学生における文化受容を考える際に、ベリー (J. W. Berry) が提唱した四つの「文化受容態度」が参考になる。その一つである「周辺化」に関する記述として最も適当なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 自文化と留学先の文化に関心を持ち、それらを調和させる。
- 2 自文化を捨てて、留学先の文化や人々との関係を重視する。
- 3 自文化、留学先の文化のどちらからも距離を取る。
- 4 自文化を保持し、留学先の文化や人々との関係を軽視する。

問 4 文化に対する考え方の一つである「文化相対主義」に関する記述として最も適当なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 文化の多様性を許容せず、異文化理解の必要性を認めない。
- 2 自文化を基準として捉え、他の文化を否定的に判断する。
- 3 それぞれの文化を独自の価値体系を持つ対等な存在として捉える。
- 4 人は属する文化によって行動や思考を規定されていると考える。

問 5 ホール (E. Hall) が提唱した概念に「高コンテクスト文化」「低コンテクスト文化」がある。「高コンテクスト文化」に関する記述として最も適当なものを、次の 1～4 の中から一つ選べ。

- 1 状況を読み取る「察し」が要求される。
- 2 人々の移動が多く、結びつきが弱い。
- 3 共通の価値観や前提の共有が少ない。
- 4 コミュニケーションが非効率的である。

【正解】

平成 24 年度(2012 年)検定試験 試験Ⅲ 問題 11

問 1	3	問 2	1	問 3	2	問 4	4	問 5	1
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

平成 26 年度(2014 年)検定試験 試験Ⅲ 問題 13

問 1	2	問 2	2	問 3	3	問 4	4	問 5	2
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

平成 27 年度(2015 年)検定試験 試験Ⅰ 問題 8

問 1	4	問 2	1	問 3	3	問 4	1	問 5	4
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

平成 28 年度(2016 年)検定試験 試験Ⅲ 問題 9

問 1	1	問 2	1	問 3	4	問 4	2	問 5	3
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

平成 29 年度(2017 年)検定試験 試験Ⅰ 問題 8

問 1	1	問 2	1	問 3	3	問 4	3	問 5	1
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---